

② 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況

a. 重要な種及び注目すべき生息地

(a) 文献その他の資料調査

7. 調査地域

調査地域は、対象事業実施区域及びその周囲とした。

4. 調査方法

調査方法は、文献その他の資料により確認された動物について、表 12. 1. 4-31 の選定基準に基づき学術上又は希少性の観点から重要な種及び注目すべき生息地を抽出した。

表 12. 1. 4-31 (1) 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他の資料	
①	<p>「文化財保護法」(昭和25年法律第214号、最終改正：令和4年6月17日)</p> <p>「宮城県文化財保護条例」(昭和50年宮城県条例第49号)</p> <p>「仙台市文化財保護条例」(昭和37年仙台市条例第27号)</p>	<p>特天：特別天然記念物</p> <p>国天：天然記念物</p> <p>県天：県指定天然記念物</p> <p>市天：市指定天然記念物</p>	<p>「国指定文化財等データベース」(文化庁HP、閲覧：令和5年12月)、「宮城県の天然記念物一覧」(宮城県HP、閲覧：令和5年12月)、「仙台市の文化財一覧」(仙台市HP、閲覧：令和5年12月)</p>
②	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号、最終改正：令和4年6月17日)及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年政令第17号、最終改正：令和5年2月3日)</p>	<p>国内：国内希少野生動植物種</p> <p>特定：特定国内希少野生動植物種</p> <p>緊急：緊急指定種</p>	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年政令第17号、最終改正：令和5年2月3日)</p>
③	<p>「環境省レッドリスト2020」(環境省、令和2年)の掲載種</p>	<p>EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。</p> <p>EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らか外側で野生化した状態でのみ存続している種。</p> <p>CR+EN：絶滅危惧I類・・・絶滅の危機に瀕している種。</p> <p>CR：絶滅危惧IIA類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。</p> <p>EN：絶滅危惧IIB類・・・IIA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。</p> <p>VU：絶滅危惧II類・・・絶滅の危険が増大している種。</p> <p>NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。</p> <p>DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種。</p> <p>LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p>	<p>「環境省レッドリスト2020の公表について」(環境省HP、閲覧：令和5年12月)</p>

表 12.1.4-31(2) 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他の資料
④	「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」(宮城県 HP、閲覧：令和 5 年 12 月)	「宮城県レッドリスト 2021 年版の公表について」(宮城県 HP、閲覧：令和 5 年 12 月)
	EX：絶滅・・・国(県内)ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種 VU：絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群(繁殖個体群を含む)で、絶滅のおそれが高いもの 要：要注目種・・・県内では現時点で絶滅の可能性が低いものの、その生息・生育状況に注目すべき種	

表 12.1.4-31(3) 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

選定基準		カテゴリー及び説明	
⑤	学術上重要種 (Ⅰ)	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となる種
		3	仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種
		4	1、2、3 には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種(継続的に観察・研究されている種など)
	減少種 (Ⅱ)	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種
		EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
		A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種
		B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種
		C	減少している、あるいは存続基盤が脆弱で、生息・生育条件の変化によっては上位ランクに移行する要素を有する種
		+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種
		/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい
	・	判断に資する情報がない	
	環境指標種 (Ⅲ)	○	本市の各環境分類における環境の指標種(ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)

注：減少種の地域区分として、対象事業実施区域は「西部丘陵地・田園地域」に該当するため、「西部丘陵地・田園地域」に記載されているカテゴリーを抽出した。

〔「令和 3 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市 HP、閲覧：令和 5 年 12 月)より作成〕

ウ. 調査結果

(7) 重要な種 (哺乳類)

前述の選定基準 (表 12. 1. 4-31) に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-32 にとりまとめた。

文献その他の資料調査で確認された種のうち、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、ムササビ、ツキノワグマ、カモシカ等の 24 種が選定された。

表 12. 1. 4-32 哺乳類の重要な種 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤		
								I	II	
1	モグラ	トガリネズミ	シントウトガリネズミ				DD			
2			カワネズミ				DD	1,4		
3		モグラ	ヒメヒミズ					1		
4			ミズラモグラ			NT	NT	1,4		
5	コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ					1		
6			ニホンキクガシラコウモリ					1 ^{※1}		
7		ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ				VU	1,4		
8			カグヤコウモリ				CR+EN	1,4		
9			モモジロコウモリ					1,4		
10			モリアブラコウモリ			VU	CR+EN	1,4		
11			ヤマコウモリ			VU	VU	1,4		
12			ヒナコウモリ					1,4		
13			ウサギコウモリ				VU	1,4		
14			ユビナガコウモリ					1,4		
15			コテングコウモリ					1,4		
16			テングコウモリ				VU	1,4		
17		ネズミ	リス	ホンドモモンガ					1,4	
18				ムササビ					1,4 ^{※2}	
19			ヤマネ	ヤマネ	国天			NT	1,4	
20			ネズミ	ヤチネズミ					4 ^{※3}	
21	ホンシュウカヤネズミ						要 ^{※4}	2		
22	ネコ	クマ	ツキノワグマ					4		
23		イタチ	オコジョ			NT ^{※5}	NT ^{※6}	1,4 ^{※6}		
24	ウシ	ウシ	カモシカ	特天			要 ^{※7}	4		
合計	5 目	10 科	24 種	2 種	0 種	4 種	13 種	23 種	0 種	

注：1. 種名及び配列については原則として「令和 3 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和 5 年 12 月）に準拠した。

2. 表内の選定基準の No 及びカテゴリーの記号等は表 12. 1. 4-31 に対応している。

3. 表中の※については以下のとおりである。

※1：キクガシラコウモリで掲載

※2：ニッコウムササビで掲載

※3：トウホクヤチネズミで掲載

※4：カヤネズミで掲載

※5：「ホンドオコジョ」、「エゾオコジョ」で掲載

※6：ホンドオコジョで掲載

※7：ニホンカモシカで掲載

4. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

(イ) 重要な種（鳥類）

前述の選定基準（表 12. 1. 4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-33 にとりまとめた。

文献その他の資料調査で確認された種のうち、ウズラ、ヨタカ、クマタカ、ヤマセミ、ハヤブサ、クロツグミ等の 80 種が選定された。

表 12. 1. 4-33(1) 鳥類の重要な種（文献その他の資料調査）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤			
								I	II		
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	CR+EN	1, 4	A		
2			ヤマドリ					1, 4			
3	カモ	カモ	ヒシクイ	国天		VU	※				
4			マガン	国天		NT		1, 4			
5			ハクガン			CR	要	1, 4			
6			シジュウカラガン		国内	CR	NT	1, 4			
7			コクガン	国天		VU	VU	1, 2, 4			
8			オシドリ			DD		1, 4			
9			トモエガモ			VU		1			
10			ペリカン	サギ	サンカノゴイ			EN	NT	1	
11					ヨシゴイ			NT	NT	1, 4	
12	オオヨシゴイ				国内	CR	CR+EN	1, 4			
13	ミゾゴイ					VU	VU	1, 4			
14	アマサギ							4			
15	チュウサギ					NT		1, 2, 4			
16	コサギ						NT				
17	カラシラサギ					NT	NT	1			
18	ツル	クイナ	クイナ				NT	1, 4			
19			ヒクイナ			NT	CR+EN	1, 4			
20			バン					1, 4			
21	カッコウ	カッコウ	ホトトギス					1, 4			
22			カッコウ					1, 4			
23	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	VU	1, 4			
24	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ				NT				
25	チドリ	チドリ	イカルチドリ				NT	1, 4			
26			シロチドリ			VU	NT	1, 4			
27		シギ	オオジシギ			NT	VU	1, 4			
28			オグロシギ				NT				
29			オオソリハシシギ			VU	NT				
30			ホウロクシギ			VU	NT	1, 4			
31			ツルシギ			VU	NT	1, 4			
32			アカアシシギ			VU		1			
33			タカブシギ			VU					
34			ハマシギ			NT	NT	1, 4			
35			ヘラシギ		国内	CR	CR+EN	1			
36			タマシギ	タマシギ			VU				
37			カモメ	コアシサシ			VU	VU	1, 2, 4		
38			ウミスズメ	ウミスズメ			CR		1, 4		
39			タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT		1, 4	
40	タカ	ハチクマ				NT	VU	1, 4			
41	オジロワシ	国天		国内	VU	VU	1, 2, 4				

表 12.1.4-33(2) 鳥類の重要な種 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤		
								I	II	
42	タカ	タカ	オオワシ	国天	国内	VU	VU	1, 2, 4		
43			チュウヒ		国内	EN	NT	1, 4		
44			ツミ				DD	1, 4		
45			ハイタカ			NT	NT	1, 4		
46			オオタカ			NT	NT	1, 4		
47			サシバ			VU	VU	1, 4		
48			イヌワシ		国天	国内	EN	CR+EN	1, 4	
49			クマタカ			国内	EN	VU	1, 4	
50			フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				NT	1
51	コノハズク						DD	1		
52	フクロウ							1		
53	アオバズク						VU	1		
54	トラフズク						NT	1		
55	コムミズク						NT	1		
56	ブッポウソウ	カワセミ			アカショウビン				NT	1
57			カワセミ				1, 4			
58			ヤマセミ				NT	1, 4		
59	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ					1, 4		
60			チゴハヤブサ				NT			
61			ハヤブサ		国内	VU	NT	1, 4		
62	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	NT			
63		カササギヒタキ	サンコウチョウ					1		
64		モズ	チゴモズ			CR	CR+EN	1, 4	A	
65			モズ					1		
66			アカモズ		国内	EN	CR+EN	1, 4	A	
67		ツバメ	コシアカツバメ				CR+EN		A	
68		ウグイス	ウグイス					1, 4		
69		センニュウ	オオセッカ		国内	EN	VU	1, 3, 4		
70		ヨシキリ	オオヨシキリ					1, 4		
71			コヨシキリ					1, 4		
72		セッカ	セッカ					1, 4		
73		ヒタキ	クロツグミ					1, 4		
74			コルリ					1, 4		
75			オオルリ					1, 4		
76		イワヒバリ	イワヒバリ				CR+EN			
77		セキレイ	キセキレイ					1, 4		
78	セグロセキレイ						4			
79	ホオジロ	ノジコ			NT	NT	1, 4			
80		コジュリン				VU	VU	1, 4		
合計	13 目	29 科	80 種	6 種	11 種	45 種	52 種	69 種	4 種	

注：1. 種名及び並びについては原則として「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市HP、閲覧：令和5年12月）に準拠した。

2. 表内の選定基準のNo及びカテゴリーの記号等は表12.1.4-31に対応している。

3. 表中の※については以下のとおりである。

※：亜種ヒシクイはVU / オオヒシクイはNTで掲載

4. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがあるAランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・Cランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

(ウ) 重要な種 (爬虫類)

前述の選定基準 (表 12.1.4-31) に該当する種を重要な種として選定し、表 12.1.4-34 にとりまとめた。

文献その他の資料調査で確認された種のうち、ヒガシニホントカゲ、タカチホヘビ等の 3 種が選定された。

表 12.1.4-34 爬虫類の重要な種 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	
								I	II
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ					1	
2		タカチホヘビ	タカチホヘビ				DD	1	
3		ナミヘビ	シロマダラ				DD	1	
合計	1 目	3 科	3 種	0 種	0 種	0 種	2 種	3 種	0 種

- 注：1. 種名及び配列については原則として「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市HP、閲覧：令和5年12月)に準拠した。
2. 表内の選定基準のNo及びカテゴリーの記号等は表12.1.4-31に対応している。
3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがあるAランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・Cランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

(I) 重要な種 (両生類)

前述の選定基準 (表 12. 1. 4-31) に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-35 にとりまとめた。

文献その他の資料調査で確認された種のうち、トウホクサンショウウオ、アカハライモリ、トノサマガエル等の9種が選定された。

表 12. 1. 4-35 両生類の重要な種 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	
								I	II
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ			NT	NT	4	
2			クロサンショウウオ			NT	LP		
3			キタオウシュウサンショウウオ				NT	2	
4			イモリ	アカハライモリ			NT	LP	
5	無尾	アカガエル	タゴガエル				NT		
6			ヤマアカガエル				NT		
7			トノサマガエル			NT	VU		
8			トウキョウダルマガエル			NT	NT		
9			ツチガエル				NT		
合計	2目	3科	9種	0種	0種	5種	9種	2種	0種

注：1. 種名及び配列については原則として「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市HP、閲覧：令和5年12月）に準拠した。

2. 表内の選定基準のNo及びカテゴリーの記号等は表12.1.4-31に対応している。

3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがあるAランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・Cランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

4. ツチガエルについては、令和4年にムカシツチガエルとして新たに別種として分類された。生息域を踏まえると、本調査で確認されたツチガエルはムカシツチガエルに該当すると考えられる。

(オ) 重要な種 (昆虫類)

前述の選定基準 (表 12. 1. 4-31) に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-36 にとりまとめた。

文献その他の資料調査で確認された種のうち、モートンイトトンボ、オオムラサキ、ゲンゴロウ等の 126 種が選定された。

表 12. 1. 4-36(1) 昆虫類の重要な種 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤		
								I	II	
1	トンボ (蜻蛉)	イトトンボ	ヒヌマイトトンボ			EN	CR+EN	1,2		
2			モートンイトトンボ			NT				
3		カワトンボ	アオハダトンボ			NT				
4		ムカシトンボ	ムカシトンボ					1,4		
5		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT	NT			
6				マダラヤンマ			NT	VU		
7				マルタンヤンマ				NT		
8				カトリヤンマ				CR+EN	1	
9		サナエトンボ	ウチワヤンマ					1		
10				ヒメサナエ			VU	1	A	
11				ナゴヤサナエ			VU	CR+EN	1,2	
12		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ					1,4		
13		エゾトンボ	オオトラフトンボ					1		
14				エゾトンボ			VU			
15		トンボ	ハッチョウトンボ				VU	1		
16				コノシメトンボ			CR+EN	1	A	
17				キトンボ			VU	1	A	
18				ヒメアカネ			CR+EN	1	A	
19	ゴキブリ (網翅)	オオゴキブリ	オオゴキブリ			VU				
20	バッタ (直翅)	マツムシ	スズムシ					1		
21		ヒバリモドキ	ハマスズ			CR+EN				
22		バッタ	ヤマトマダラバッタ			VU	2			
23			カワラバッタ			NT	1			
24	カメムシ (半翅)	ヨコバイ	スナヨコバイ			NT	CR+EN			
25		カメムシ	ヒウラカメムシ			NT	NT			
26		コオイムシ	コオイムシ			NT	NT	1		
27		タガメ		特定	VU	CR+EN	1	A		
28	アミメカゲロウ (脈翅)	ツノトンボ	ツノトンボ			CR+EN	1	A		
29			キバネツノトンボ			VU	1			
30		ウスバカゲロウ	カスリウスバカゲロウ			DD				
31			オオウスバカゲロウ			CR+EN				
32	チョウ (鱗翅)	ボクトウガ	ハイイロボクトウ			NT				
33		セセリチョウ	ホシチャバネセセリ			EN	VU	1	A	
34				チャマダラセセリ			EN	CR+EN	1	A
35				スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種			NT ^{※1}			
36		シジミチョウ	クロミドリシジミ					1		
37				カラスシジミ			NT			
38				クロシジミ			EN	EX	1	
39	オオゴマシジミ					NT	DD			
40			フジミドリシジミ				1			

表 12. 1. 4-36(2) 昆虫類の重要な種 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤		
								I	II	
41	チョウ (鱗翅)	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			VU				
42			オオウラギンヒョウモン			CR	EX		EX	
43			キマダラモドキ			NT	NT	1		
44			ウラジヤノメ本州亜種				DD	1,2		
45			オオムラサキ			NT		1		
46			ギンボシヒョウモン本州亜種				CR+EN	1		
47		アゲハチョウ	アオスジアゲハ				4			
48			ヒメギフチョウ本州亜種			NT	NT	1		
49		シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種			EN ^{※2}	CR+EN		EX	
50		カレハガ	ヒロバカレハ			VU				
51		ヤママユガ	オナガミズアオ			NT				
52		スズメガ	ヒメスズメ			NT	CR+EN			
53			ギンボシスズメ				CR+EN	1	A	
54		シャチホコガ	タツカモクメシャチホコ					1		
55			クワヤマエグリシャチホコ			NT	NT	1		
56		ヒトリガ	キバラヒトリ				NT	1		
57		ドクガ	フタホシドクガ				NT	1		
58		ヤガ	キスジウスキョトウ			VU				
59			コシロシタバ			NT	NT	1		
60			ヌマベウスキョトウ			VU				
61			ギンモンセダカモクメ			NT	CR+EN	1	A	
62			オガサワラヒゲョトウ			EN	CR+EN	1	A	
63			オオチャバネョトウ			VU				
64			ギンモンアカョトウ			VU				
65			コウチュウ (鞘翅)	オサムシ	ハマベミズギワゴミムシ			VU		
66		マークオサムシ					VU ^{※3}	CR+EN		
67		セアカオサムシ					NT	NT		
68		ツヤキベリアオゴミムシ					VU	VU		
69		キバナガミズギワゴミムシ						VU		
70		ヤマトトックリゴミムシ							1	
71		キベリマルクビゴミムシ					EN			
72		エチゴトックリゴミムシ					NT	NT		
73		ギョウトクコミズギワゴミムシ					VU	DD		
74		ヒョウタンゴミムシ						NT		
75	ハンミョウ	カワラハンミョウ					EN	CR+EN	1	
76		ホソハンミョウ					VU	NT		
77	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ				特定	VU	NT	1	
78		シマゲンゴロウ					NT			
79		オオイチモンジシマゲンゴロウ			特定	EN	VU	1		
80		ケシゲンゴロウ				NT				
81		エゾヒメゲンゴロウ					DD			
82	ミズスマシ	ヒメミズスマシ				EN				
83		ミズスマシ				VU				
84	コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ				DD				
85		マダラコガシラミズムシ				VU	DD			
86	ガムシ	ガムシ				NT				
87		シジミガムシ				EN				
88	クワガタムシ	ネプトクワガタ本土亜種					DD ^{※4}	2		
89		オニクワガタ						1		

表 12. 1. 4-36(3) 昆虫類の重要な種 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤		
								I	II	
90	コウチュウ (鞘翅)	コガネムシ	アカマダラハナムグリ			DD	NT			
91			ダイコクコガネ			VU	VU		A	
92		ヤマトケシマグソコガネ				NT				
93		コブスジコガネ	コブナシコブスジコガネ				NT			
94		ナガハナノミ	タテスジヒメヒゲナガハナノミ				DD			
95		タマムシ	ヤマトタマムシ				NT			
96		コメツキムシ	ミヤマヒサゴコメツキ				NT			
97			カワイヒラアシコメツキ				DD	2		
98			スナサビキコリ				NT	2		
99		ホタル	ゲンジボタル				NT	1		
100			ヒメボタル				NT			
101			スジグロボタル				NT			
102		オオキノコムシ	クロホシチビオオキノコ				DD			
103		ツチハンミョウ	ムラサキオオツチハンミョウ				NT			
104		カミキリムシ	ヤマトキモンハナカミキリ				VU			
105			ヨツボシカミキリ			EN	CR+EN		A	
106		ハムシ	ベニカメノコハムシ				NT			
107			タグチホソヒラタハムシ				VU			
108			シラハタミズクサハムシ				VU			
109		ヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ				DD			
110		ハチ (膜翅)	クモバチ	アカゴシクモバチ				NT		
111				ムツボシクモバチ			NT ^{※5}			
112				チシマシロフクモバチ				NT ^{※6}		
113				ハイイロクモバチ				NT		
114			ツチバチ	オオモンツチバチ				NT ^{※7}		
115			ギングチバチ	ササキリギングチ			NT			
116	ドロバチモドキ		ヤマトスナハキバチ本土亜種			DD ^{※8}	NT ^{※9}			
117			ニッポンハナダカバチ			VU	CR+EN ^{※10}			
118	アリマキバチ		アシジロヨコバイバチ				NT			
119			ミヤギノヨコバイバチ				VU			
120			キアシマエダテバチ				DD			
121	フシダカバチ		キスジツチスガリ				CR+EN ^{※11}	1		
122	ムカシハナバチ		ホソメンハナバチ				CR+EN			
123	コハナバチ		アオスジハナバチ				CR+EN	1,2	A	
124	ハキリバチ		キヌゲハキリバチ				VU	1		
125			マイマイツツハナバチ			DD	VU	1		
126	コマユバチ	ウマノオバチ				NT				
合計	8 目	58 科	126 種	0 種	3 種	59 種	92 種	51 種	16 種	

注：1. 種名及び鑑別については原則として「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市HP、閲覧：令和5年12月)に準拠した。

2. 表内の選定基準のNo及びカテゴリーの記号等は表12.1.4-31に対応している。

3. 表中の※については以下のとおりである。

- ※1：スジグロチャバネセセリ名義タイプ亜種で掲載
- ※2：ヒメシロチョウで掲載
- ※3：マークオサムシ本州亜種で掲載
- ※4：ネプトクワガタで掲載
- ※5：ムツボシベッコウで掲載
- ※6：ホソシロフクモバチで掲載
- ※7：オオモンツチバチ日本亜種で掲載
- ※8：ヤマトスナハキバチで掲載
- ※9：ヤマトスナハキバチ北海道～屋久島亜種で掲載
- ※10：ニッポンハナダカバチ本土亜種で掲載
- ※11：キスジツチスガリ日本・朝鮮亜種で掲載

4. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区別されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがあるAランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・Cランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

(カ) 重要な種（魚類）

前述の選定基準（表 12. 1. 4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12. 1. 4-37 にとりまとめた。

文献その他の資料調査で確認された種のうち、ニホンウナギ、ホトケドジョウ、カジカ等の 35 種が選定された。

表 12.1.4-37 重要な魚類 (文献その他の資料調査)

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤			
								I	II		
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類			VU ^{※1}	※2	1 ^{※1}			
2			カワヤツメ			VU	CR+EN	1	A		
3	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN	NT	1			
4	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ			EN					
5			キンブナ			VU	VU				
6			テツギョ				要	1			
7			タナゴ			EN	CR+EN		EX		
8			アカヒレタビラ			EN	CR+EN		EX		
9			ゼニタナゴ			CR	CR+EN		EX		
10			エゾウグイ			LP ^{※3}	CR+EN	1,4			
11			シナイモツゴ			CR	CR+EN	1,4	A		
12					スナゴカマツカ				DD		
13				ドジョウ	ドジョウ			NT			
14					キタドジョウ			DD	DD		
15				フクドジョウ	ホトケドジョウ			EN	NT	1	
16	ナマズ	ギギ	ギバチ			VU	NT	1			
17	サケ	キュウリウオ	ワカサギ				NT ^{※4}				
18		シラウオ	シラウオ				NT				
19		サケ	ニッコウイワナ			DD					
20			サクラマス (ヤマメ)			NT	NT ^{※5}	1 ^{※6}			
21	トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ			LP ^{※7}	CR+EN	1,4			
22	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU	NT	1	A		
23		サヨリ	クルマサヨリ			NT	VU	1			
24	スズキ	カジカ	カジカ			※8					
25			ウツセミカジカ (回遊型)				VU ^{※9}	1 ^{※9}			
26		ハゼ	ヒモハゼ			NT	NT	1			
27			シロウオ			VU	NT				
28			ボウズハゼ				DD	2			
29			アベハゼ				NT	2			
30			マサゴハゼ			VU	VU	1,2			
31			スミウキゴリ			LP ^{※10}		1			
32			ヘビハゼ			DD	DD	1			
33			ジュズカケハゼ			NT	NT				
34			エドハゼ			VU	CR+EN	1			
35			クロホシマンジュウダイ	クロホシマンジュウダイ				要	2		
合計			8 目	15 科	35 種	0 種	0 種	27 種	30 種	21 種	6 種

注：1. 種名及び配列については原則として「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市 HP、閲覧：令和5年12月）に準拠した。

2. 表内の選定基準のNo 及びカテゴリーの記号等は表 12.1.4-31 に対応している。

3. 表中の※については以下のとおりである。

※1：スナヤツメ北方種/スナヤツメ南方種で掲載 ※2：DD：スナヤツメ北方種、NT：スナヤツメ南方種で掲載

※3：東北地方のエゾウグイで掲載

※4：ワカサギ (通し回遊型) で掲載

※5：サクラマス (通し回遊型) で掲載

※6：サクラマスで掲載

※7：本州のニホンイトヨで掲載

※8：EN：「カジカ中卵型」、「カジカ小卵型」で掲載、NT：「カジカ大卵型」で掲載

※9：ウツセミカジカで掲載

※10：北海道南部・東北地方のスミウキゴリで掲載

4. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

(b) 現地調査

7. 調査地域

調査地域は、対象事業実施区域及びその周囲 500m の範囲とした。

4. 調査方法

調査方法は、調査地域で確認された動物種について、表 12.1.4-31 の選定基準に基づき学術上又は希少性の観点から重要な種及び注目すべき生息地を抽出した。

ウ. 調査結果

(7) 重要な哺乳類

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12.1.4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12.1.4-38 にとりまとめた。その結果、キクガシラコウモリ、ヒナコウモリ科 1、ムササビ、ツキノワグマ及びカモシカの 5 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12.1.4-10 のとおりである。

表 12.1.4-38 重要な哺乳類（現地調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準						
				内		外	①	②	③	④	⑤		
				変更区域							I	II	
				内	外								
1	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ			○						1	
2	(翼手)	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科 1 ^{※1}	○	○	○			●	●	●		
			(ヤマコウモリ)						(VU)	(VU)	(1, 4)		
			(ヒナコウモリ)								(1, 4)		
3	ネズミ(齧歯)	リス	ムササビ			○						1, 4 ^{※2}	
4	ネコ(食肉)	クマ	ツキノワグマ	○	○	○						4	
5	ウシ(偶蹄)	ウシ	カモシカ		○	○	特天				要 ^{※3}		
-	4目	5科	5種	2種	3種	5種	1種	0種	1種	2種	4種	0種	

- 注：1. 種名及び種別は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（河川環境データベース 国土交通省、令和3年）に準拠した。
2. 選定基準は表 12.1.4-31 中の番号に対応する。
3. 表中の※については以下のとおりである。
- ※1：ヒナコウモリ科 1 は、確認した周波数のピークが「20～25kHz」であった。バットディテクターの入感音、確認環境や分布情報等によりヤマコウモリまたはヒナコウモリの可能性が高い。
 - ※2：ニッコウムササビで掲載
 - ※3：ニホンカモシカで掲載
4. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」のみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ キクガシラコウモリ

夜間調査において、対象事業実施区域外で3例がバットディテクターにより確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、落葉広葉樹林や針広混交林等の樹林環境のほか、溜め池上空でも確認された。

○ ヒナコウモリ科1

夜間調査において、対象事業実施区域内で11例、対象事業実施区域外で8例がバットディテクターにより確認された。このうち、改変区域内では8例が確認された。

確認環境は、落葉広葉樹林や針広混交林、草地、水田のほか、溜め池上空でも確認された。

○ ムササビ

対象事業実施区域外の5地点で食痕が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、スギ植林や落葉広葉樹林であった。

○ ツキノワグマ

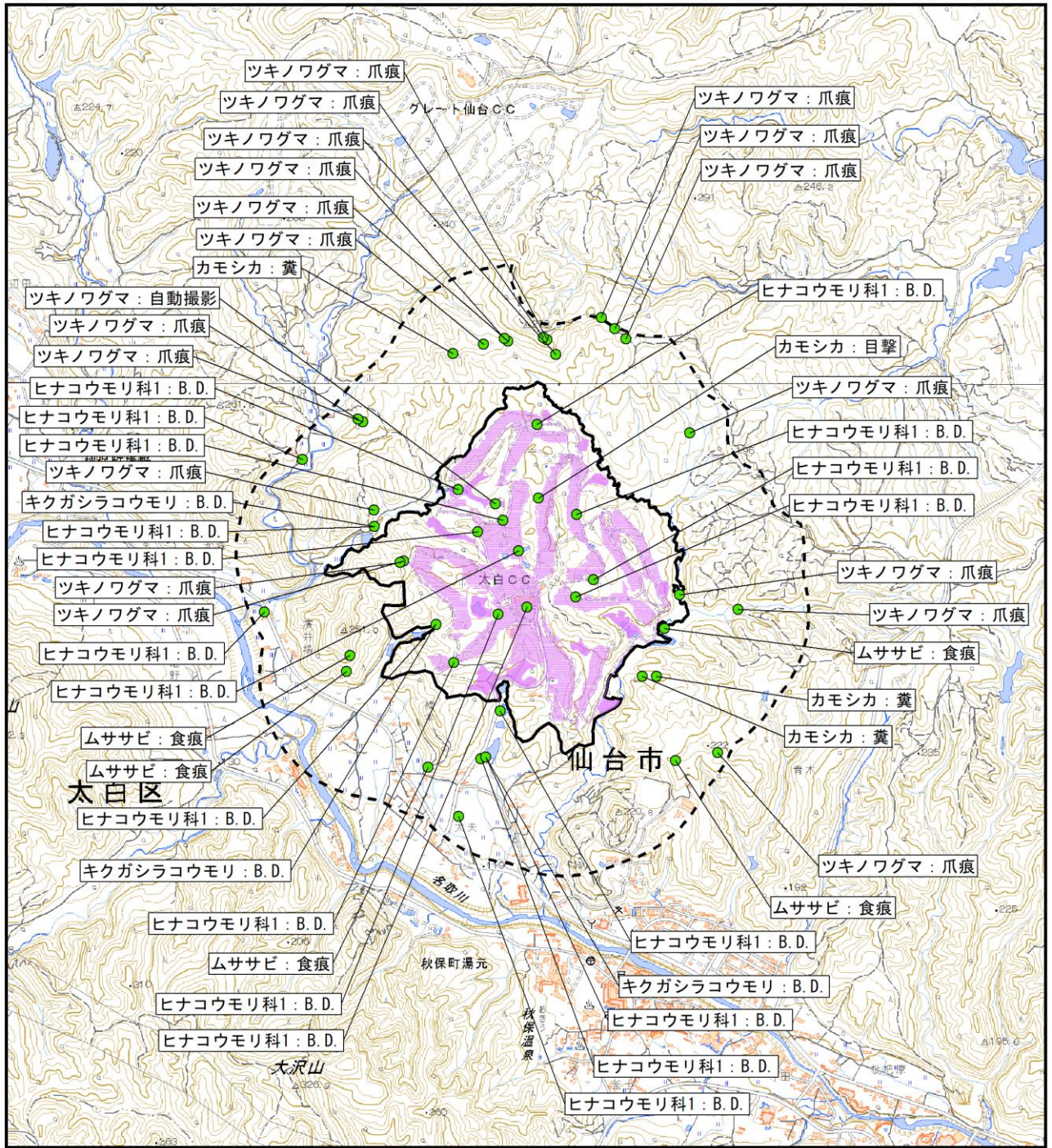
対象事業実施区域内の自動撮影地点 T2 で1例撮影されたほか、2地点で爪痕が確認された。また、対象事業実施区域外の16地点で爪痕が確認された。このうち、改変区域内では1例が確認された。

確認環境は、落葉広葉樹林やスギ植林、アカマツ林等の樹林環境であった。

○ カモシカ

対象事業実施区域内の1地点で1個体が目撃されたほか、対象事業実施区域外の3地点で糞が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、草地やスギ植林であった。。



凡 例

対象事業実施区域
 変更区域
 調査範囲
 重要種確認位置

注：図中の「B.D.」に関しては、バットディテクターで確認されたことを示す。

1:25,000

0 0.5 1 km

図 12.1.4-10 重要な哺乳類の確認位置

(4) 重要な鳥類

i. 一般鳥類調査

現地調査で確認された種のうち、前述の選定基準（表 12.1.4-31）に該当する種を重要な種として選定し、表 12.1.4-39 にとりまとめた。その結果、ヨタカ、サシバ、アカショウビン、サンショウクイ、サンコウチョウ、クロツグミ等の 16 種が選定された。確認状況は以下のとおり、確認位置は図 12.1.4-11 のとおりである。

なお、猛禽類については、ラインセンサス法及びポイントセンサス法による調査及び任意観察調査で確認された記録のみを整理し、確認環境については、上空を飛行通過したものも含めて整理を行った。

表 12.1.4-39 重要な鳥類（現地調査：一般鳥類調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域			選定基準						
				内		外	①	②	③	④	⑤		
				改変区域							I	II	
				内	外								
1	キジ	キジ	ヤマドリ		○	○					1, 4		
2	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	○	○	○					1, 4		
3	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			○			NT	VU	1, 4		
4	タカ	タカ	サシバ	○		○			VU	VU	1, 4		
5	フクロウ	フクロウ	フクロウ		○	○					1		
6	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン			○				NT	1		
7			カワセミ		○	○					1, 4		
8	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○	○	○			VU	NT			
9			カササギヒタキ	サンコウチョウ			○					1	
10			モズ	モズ	○	○	○					1	
11			ウグイス	ウグイス	○	○	○					1, 4	
12			ヒタキ	クロツグミ	○	○	○					1, 4	
13				コルリ			○					1, 4	
14				オオルリ	○		○					1, 4	
15			セキレイ	キセキレイ	キセキレイ	○	○	○					1, 4
16	セグロセキレイ	○			○	○					4		
合計	7 目	12 科	16 種	9 種	10 種	16 種	0 種	0 種	3 種	4 種	15 種	0 種	

注：1. 種名及び並びは「日本鳥類目録改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。

2. 選定基準は表 12.1.4-31 中の番号に対応する。

3. 仙台市における保全上重要な種は、「学術上重要種」「減少種」「環境指標種」に区分されている。本調査では、「学術上重要種」のほか、「減少種」のうち、現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある A ランク以上の種を重要な種と位置付け、確認位置等の記録を行った。B・C ランク以下の「減少種」及び「環境指標種」にのみ該当する種は、仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、普通種として扱うこととした。

○ ヤマドリ

対象事業実施区域内で2例3個体が確認された。対象事業実施区域外で6例6個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林であった。

○ ホトトギス

対象事業実施区域内で15例15個体が確認された。対象事業実施区域外で15例15個体が確認された。このうち、1例1個体が改変区域内での確認であった。

確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林の他、湿性草地の上空でも確認された。

○ ヨタカ

対象事業実施区域外で2例3個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、落葉広葉樹林の上空であった。

○ サンバ

対象事業実施区域内で1例1個体が確認され、改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外では2例2個体が確認された。

確認環境は、針葉樹林の上空であった。営巣地は確認されなかった。

○ フクロウ

対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。対象事業実施区域外で2例2個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林であった。

○ アカショウビン

対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。

確認環境は、針広混交林であった。

○ カワセミ

対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。対象事業実施区域外で4例5個体が確認された。改変区域内では確認されなかった。

確認環境は、止水域や流水域の開放水面であった。

○ サンショウクイ

対象事業実施区域内で14例17個体が確認された。このうち、10例12個体が改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外で7例7個体が確認された。

確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林の上空であった。

○ サンコウチョウ

対象事業実施区域外で11例11個体が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。
確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、針広混交林であった。

○ モズ

対象事業実施区域内で10例17個体が確認された。このうち、3例3個体が改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外で12例12個体が確認された。
確認環境は、落葉広葉樹林、乾性草地、湿性草地であった。

○ ウグイス

対象事業実施区域内で75例77個体が確認された。このうち、25例25個体が改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外で44例46個体が確認された。
確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林、乾性草地、湿性草地、竹林でであった。

○ クロツグミ

対象事業実施区域内で2例2個体が確認された。このうち、1例1個体が改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。
確認環境は、針葉樹林、落葉広葉樹林であった。

○ コルリ

対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。
確認環境は、落葉広葉樹林であった。

○ オオルリ

対象事業実施区域内で1例1個体が確認され、改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外で5例5個体が確認された。
確認環境は、落葉広葉樹林であった。

○ キセキレイ

対象事業実施区域内で2例3個体が確認された。このうち、1例2個体が改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外で5例5個体が確認された。
確認環境は、落葉広葉樹林、開放水面であった。

○ セグロセキレイ

対象事業実施区域内で13例17個体が確認された。このうち、5例8個体が改変区域内での確認であった。対象事業実施区域外で11例14個体が確認された。
確認環境は、乾性草地、湿性草地、人工地であった。

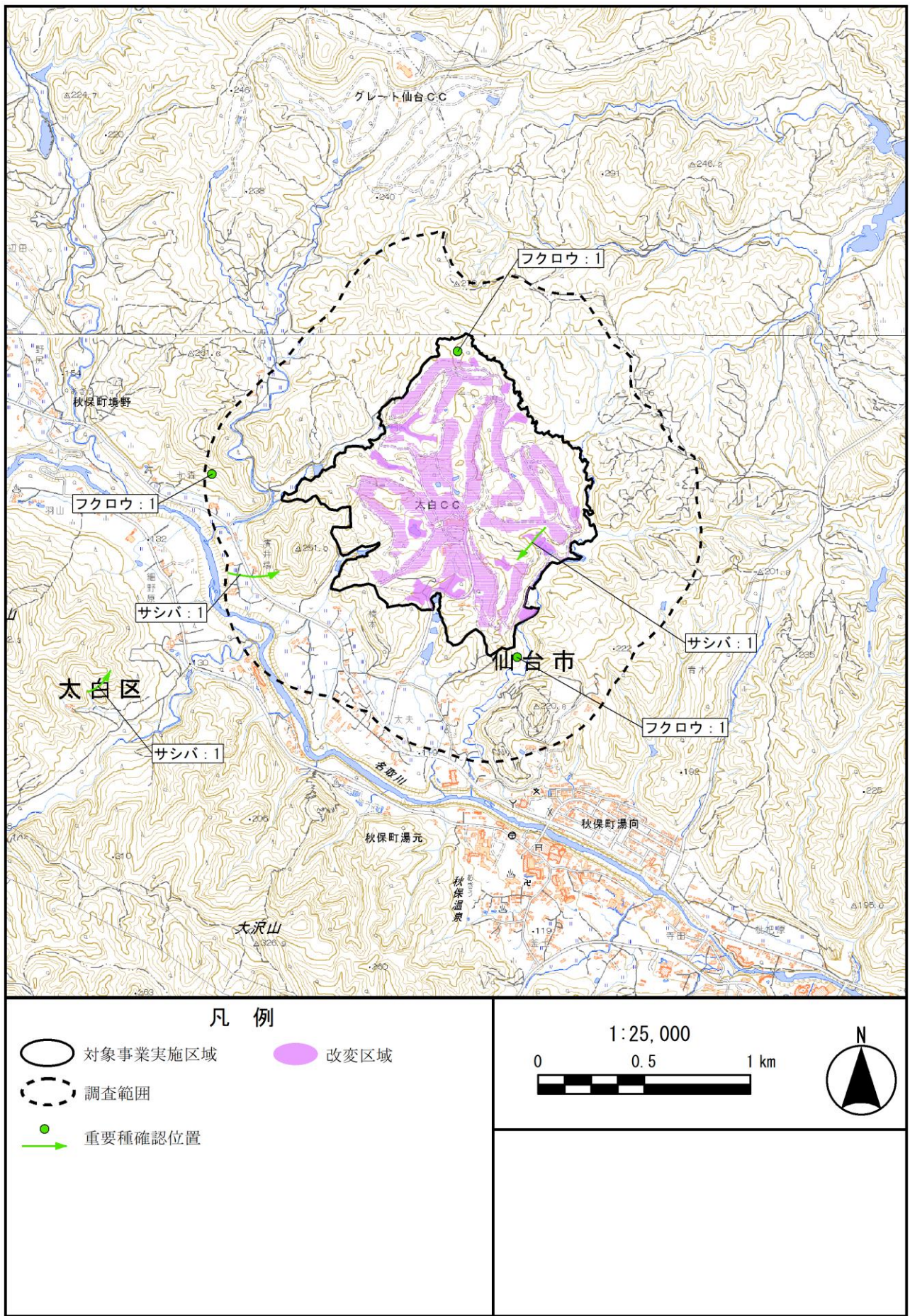


図 12.1.4-11(2) 重要な鳥類の確認位置 (猛禽類)

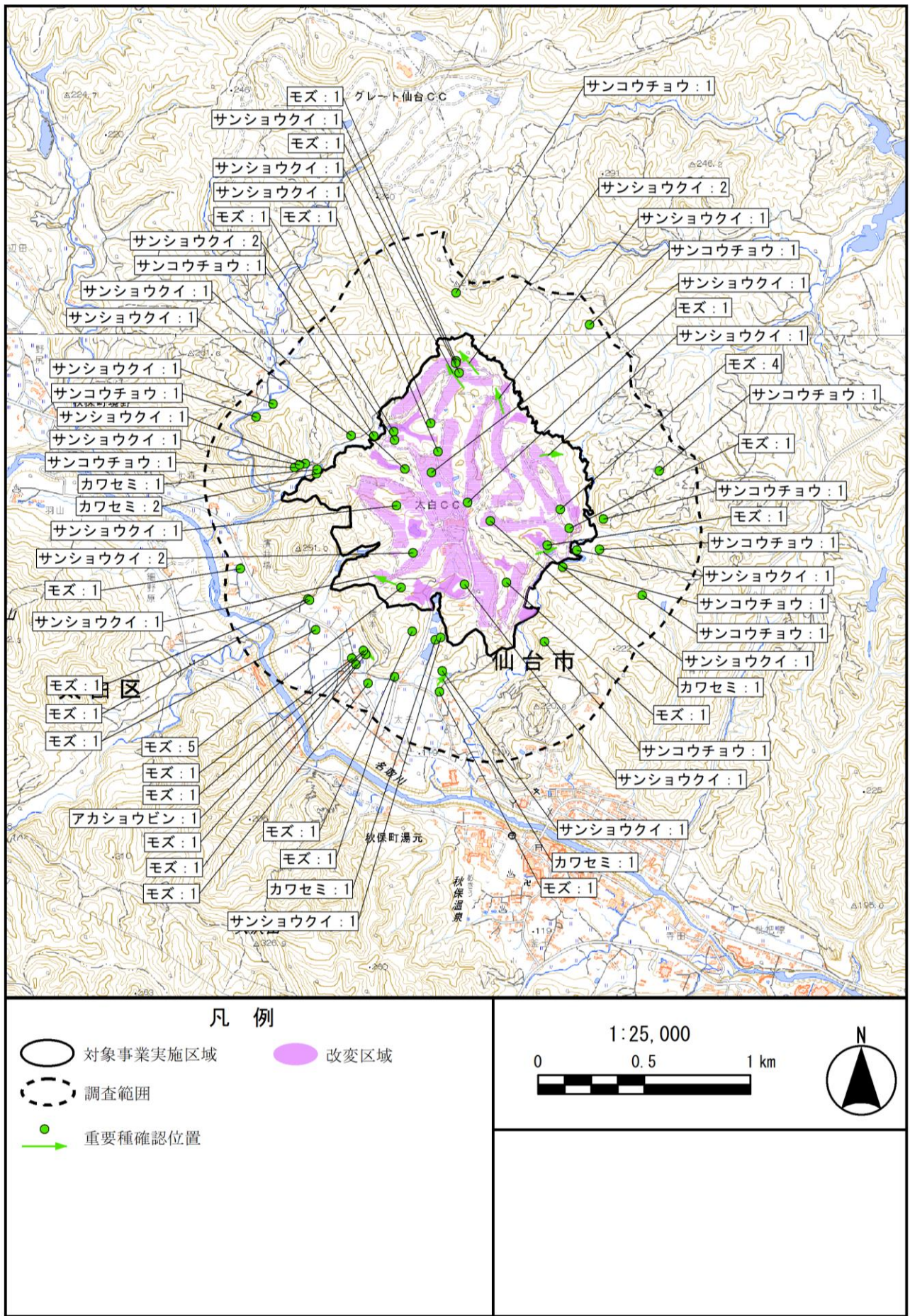


図 12.1.4-11(3) 重要な鳥類の確認位置 (カワセミ科～モズ科)

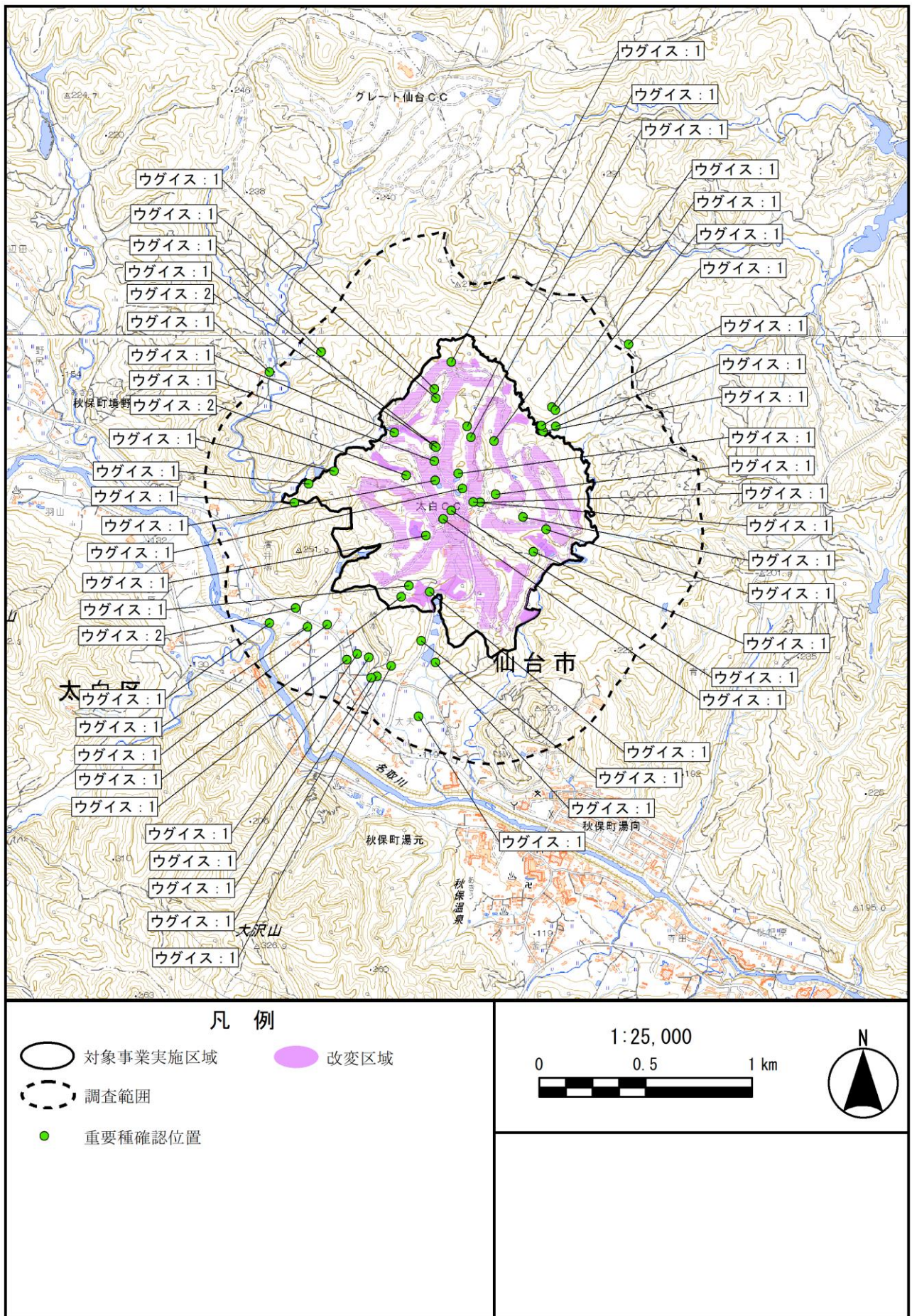
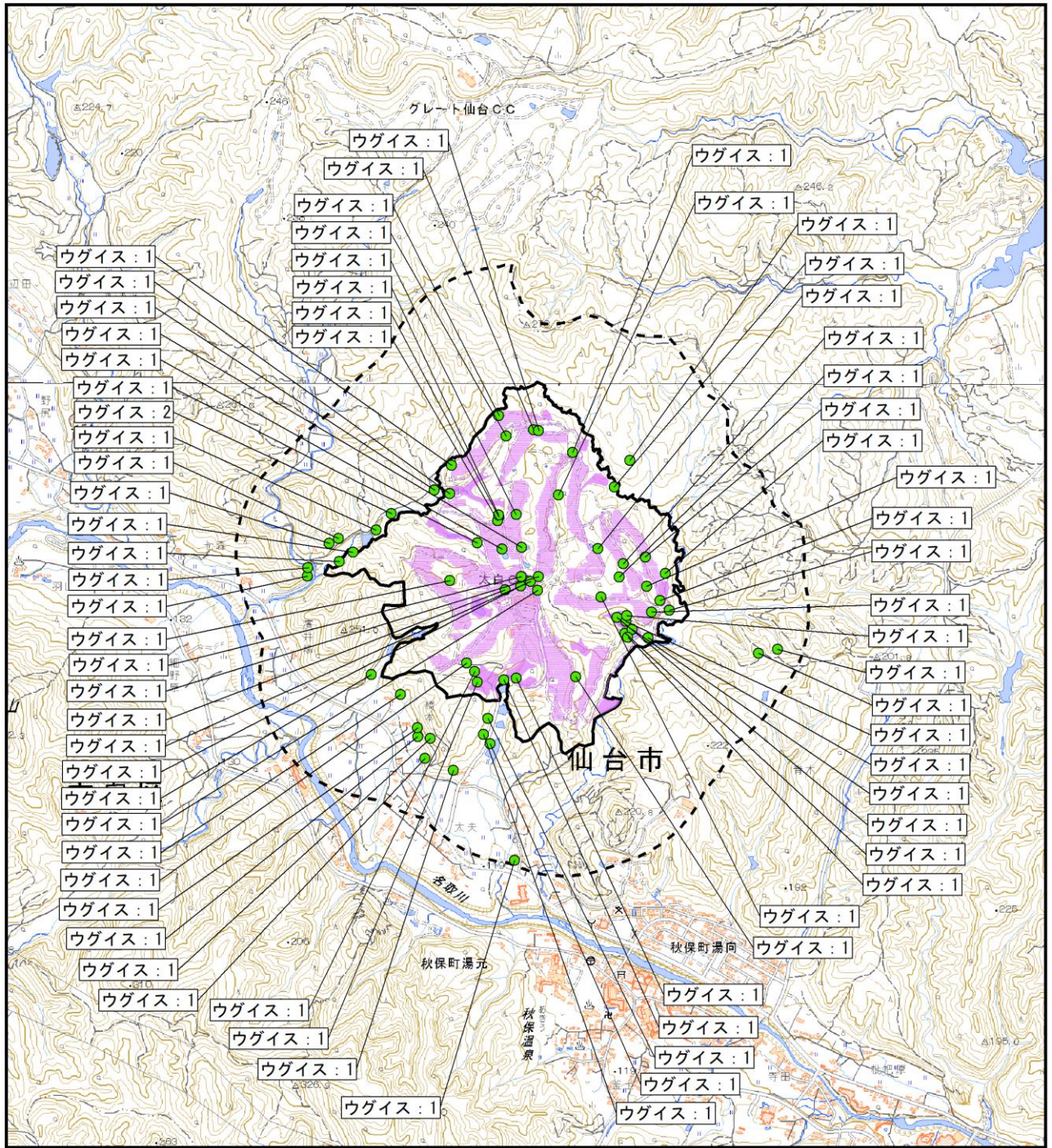


図 12.1.4-11(4) 重要な鳥類の確認位置 (ウグイス: 春季)



凡例

- 対象事業実施区域
- 変更区域
- 調査範囲
- 重要種確認位置

1:25,000

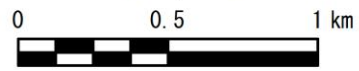
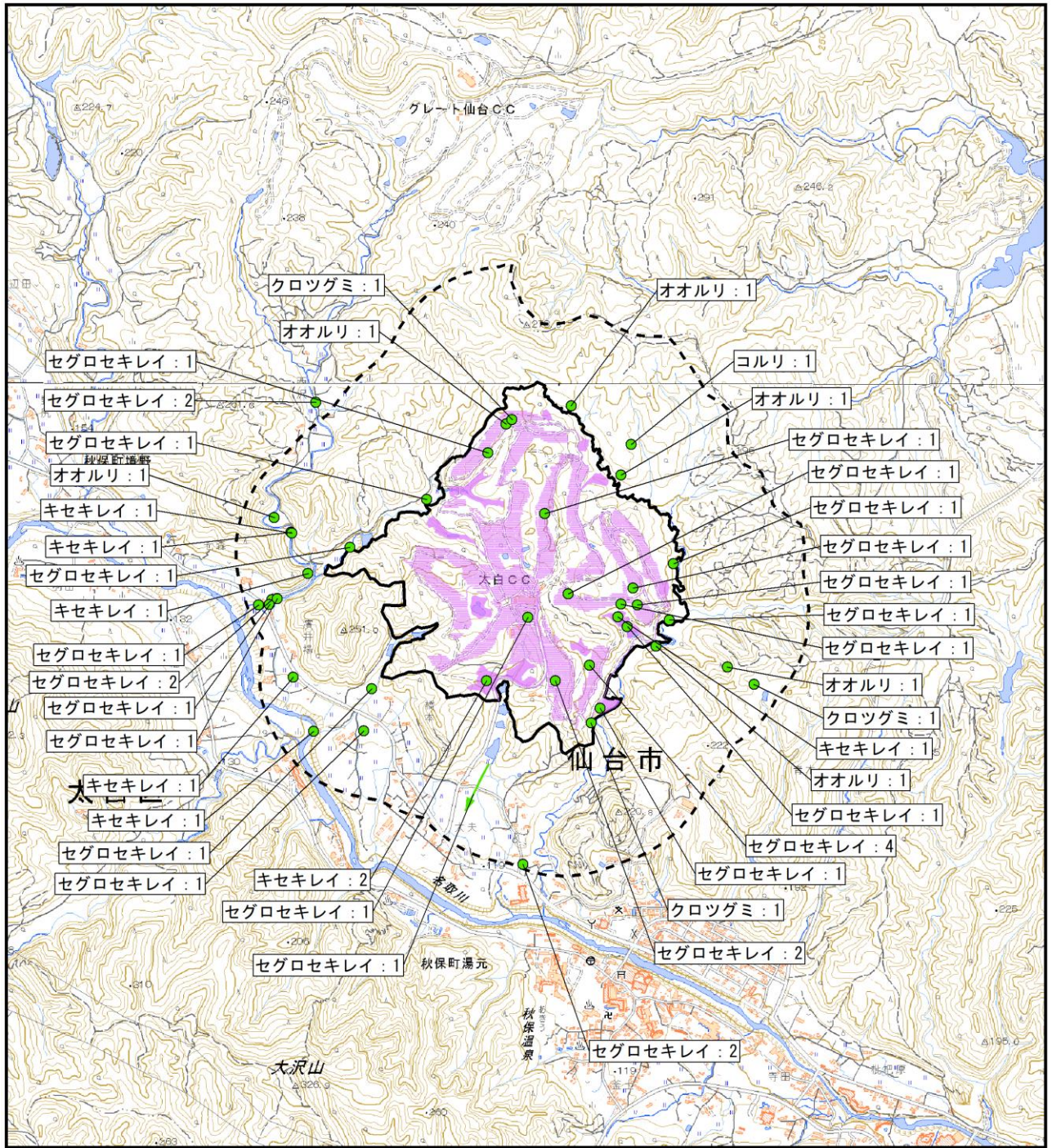


図 12.1.4-11(5) 重要な鳥類の確認位置 (ウグイス:夏季・秋季)



凡例		1:25,000 0 0.5 1 km 	
対象事業実施区域	変更区域		
調査範囲			
重要種確認位置			

図 12.1.4-11(6) 重要な鳥類の確認位置 (ヒタキ科~セキレイ科)

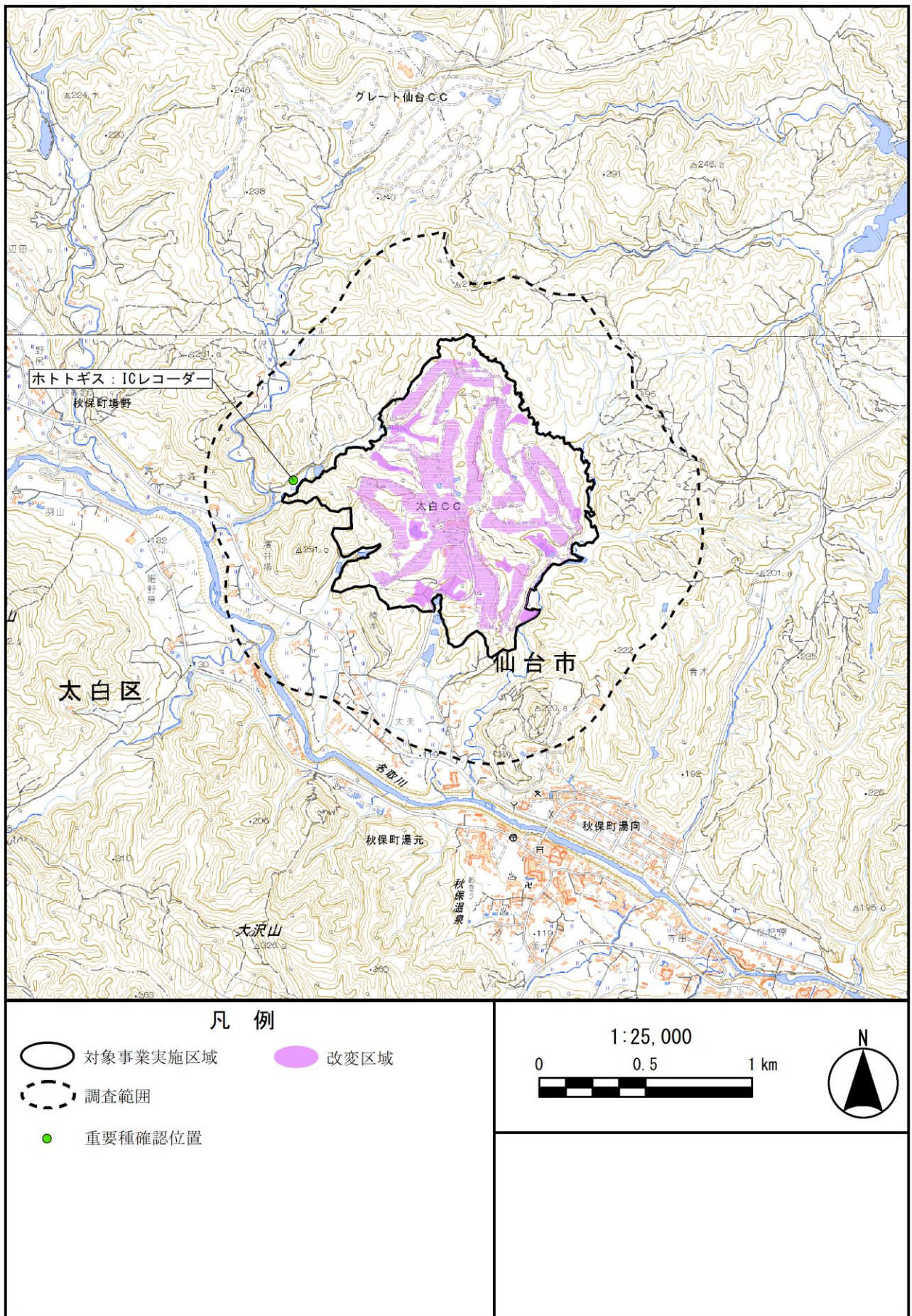


図 12.1.4-11(7) 重要な鳥類の確認位置 (夜間録音調査)